

**JASDAQ**

2019年11月14日

各 位

会社名 内外テック株式会社
 代表者名 代表取締役社長 岩井田 克郎
 (JASDAQ・コード3374)
 問合せ先 取締役 佐々木 政彦
 電 話 03-5433-1123 (代表)

第2四半期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2019年5月14日に公表いたしました2020年3月期第2四半期累計期間(2019年4月1日～2019年9月30日)の連結業績予想値と、本日公表の2020年3月期第2四半期決算の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 第2四半期連結業績予想値と実績値との差異

2020年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想値と実績値との差異
 (2019年4月1日～2019年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (2019年5月14日発表)	百万円 10,275	百万円 96	百万円 80	百万円 53	円 銭 18.07
今回実績 (B)	11,297	154	146	77	26.31
増減額 (B-A)	1,022	58	66	24	—
増減率 (%)	10.0	60.6	83.3	45.6	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	13,565	462	457	290	99.34

2. 差異の理由

2019年5月14日に公表いたしました2020年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想につきましては、前期後半からの半導体メーカーによる在庫や設備投資の調整等の不透明感が継続するものの、中長期的には、これまでのPCやモバイルに加え、IoT市場の拡大のほか、AI(人工知能)・5G(次世代通信規格)などの新たな技術による半導体需要の増加が見込まれており、再び成長軌道に回帰していくとの見通しをもとに、慎重に検討を重ねた上で公表いたしました。

期初より、半導体メモリの需給に伴う在庫調整や半導体メーカーによる設備投資に対する慎重姿勢が継続しましたが、第2四半期に入ると、需給の改善による半導体メモリ市況の回復傾向が見られ、また、一部半導体メーカーから設備投資計画の上方修正が発表されるなど半導体・半導体製造装置市場の底入れが感じられる動きが見られたことなどにより、半導体・FPD製造装置などの各種コンポーネンツ(部品)の販売及び、保守メンテナンス部門における受注等が堅調に推移した結果、「売上高」、「営業利益」、「経常利益」および「親会社株主に帰属する四半期純利益」の実績値は予想値を上回りました。

以上